

「残留応力」低減磨棒鋼

一見すると高精度な素材でも、部品加工時に変形、反り、公差不良……等のトラブルを経験した事はございませんか？

⇒この様なトラブルは、鋼材内部の“**残留応力**”が大きく影響しています。

- ◆当社では、加工条件の最適化により、残留応力制御技術を確立し“**残留応力を低減した磨棒鋼**”を提供できる体制を整えました。



■お客様へのメリット■

部品加工精度の向上

▶精密加工製品における**加工精度UP**

手直し工数の削減

▶加工後の変形が抑制され**手直し工数を削減**

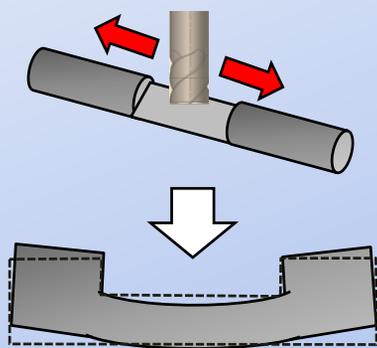
焼なまし工程の省略

▶残留応力除去の為の**焼なまし工程を省略**

⇒残留応力低減磨棒鋼のご使用により、**品質・工程改善に大きく寄与**できます。

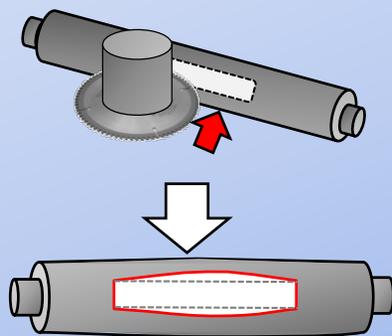
<(参考)残留応力の概要とトラブル事例>

事例①…切込み加工



応力解放による反り

事例②…中割り加工



中割り加工部の変形

残留応力とは？

冷間加工後の鋼材は鋼材内部に加工時の応力が残存し、鋼材内部で均衡を保っています。(残留応力)

この鋼材を加工すると、内部応力の均衡が崩れ、反りや変形を生じる事があります。

当社では、残留応力を課題とするトラブル撲滅に向けて取り組み続けております。